

自ら道徳性を養う「特別の教科 道徳」の指導の工夫
～道徳的な問題を自分事として、議論し探求する学習指導を通して～



御船町立 御船小学校

佐々木 雄亮

はじめに

日々の授業や子供との関わりは順風満帆なものではなく、反省の毎日である。しかし、だからこそ、目の前の子供の成長する姿を見ると、喜びともっと頑張ろうと思う活力が湧き上がってくる。

6年生となり、心身ともに成長してきた子供たち。高学年となったことで、中学年・低学年のお手本として見られる存在となった。運動会や委員会活動など、折々の場面で一生懸命に取り組む姿や、初めはできていなかったが、一人ひとりの頑張りが徐々に形になっていく姿を見ると、高学年としてとても頼もしく思える。しかし、中には学校のルールを守れなかったり、友達のことを傷つけてしまったり、自己中心的な行動をとったりする子供もまだまだ見られる。

子供一人ひとりが、毎日の学校生活を楽しく過ごすためには、クラスの友達だけでなく、学校にいる全ての人と尊重し合いながら関わる大切である。そこで必要となるのが「道徳性」である。「特別の教科 道徳」の授業の中で、様々な道徳的価値を理解し、友達との意見交換や、これまでの自分を振り返ることを積み重ねることで、子供の中に「道徳性」を育み、日々の学校生活を豊かなものにして欲しい。そのような思いから、本研究を行うこととした。

本論文では、子どもの「道徳性」を養うことをテーマに、「特別の教科道徳」の指導の工夫を模索しながら取り組んできた実践をまとめた。

はじめに

目次

I	研究の概要	1
1	主題設定の理由	1
	(1) 教育の今日的課題から	1
	(2) 本校の教育目標及び、目指す児童像から	1
	(3) 子供の実態から	2
2	研究の目的	4
3	研究の仮説	4
4	研究の視点	4
5	研究の構想図	5
II	研究の実際	6
1	実践授業①	6
	(1) 導入の工夫（視点1）について	7
	(2) 展開の工夫（視点2）について	8
	(3) 終末の工夫（視点3）について	9
2	実践授業②	10
	(1) 導入の工夫（視点1）について	12
	(2) 展開の工夫（視点2）について	13
3	実践授業③	14
	(1) 導入の工夫（視点1）について	16
	(2) 展開の工夫（視点2）について	16
	(3) 終末の工夫（視点3）について	17
III	研究の成果と課題	18
1	研究の視点より	18
	(1) 導入の工夫（視点1）について	18
	(2) 展開の工夫（視点2）について	18
	(3) 終末の工夫（視点3）について	18
2	アンケート結果と考察	19

おわりに

参考文献

研究主題

自ら道徳性を養う「特別の教科 道徳」の指導の工夫
～道徳的な問題を自分事として、議論し探求する学習指導を通して～

I 研究の概要

1 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

平成29年度より道徳の時間が、「特別の教科 道徳」として、教科化されることとなった。道徳教育の改善に関する議論の発端となったのも、いじめ問題や生命を軽んずる傾向、風紀の乱れなどの現実に関わり得る困難な壁に出会ったときに、主体的に対処することのできる実効性ある力を育成していくことが強く求められたからである。また、これまでの道徳の授業が、これらに対しての十分な成果を挙げられてこなかったのではないかと考えられている。これまでの道徳の授業は、教科ではないということから、時数確保の面や、実際の授業の面でしっかりと系統化されていない状態があった。それとともに、授業の時間が「分かりきったことを言わせる時間」や「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った学習」となるといった、形骸化・形式化した授業が展開されるなど、多くの課題が指摘されてきた。こうしたことが、子供の道徳性の育成に歯止めをかけている。

そこで、道徳教育、その中でも「特別の教科 道徳の授業」の時間を要として、子供の道徳性を育てていくことが、子供の「生きる力」を育むことにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 本校の教育目標及び、目指す子供像から

学校教育目標

ふるさとを愛し、21世紀をたくましく生きぬく子どもの育成
～自立・協働・創造～

目指す子供像

- ・かしこく (知) ・よく考え、進んで学ぶ子ども
- ・やさしく (徳) ・決まりを守り、助け合う子ども
- ・元気よく (体) ・ねばり強くがんばる子ども

「特別の教科 道徳」や日常の教育活動を通して道徳性を育むことは、以下の点で、本校教育目標及び目指す子供像につながると考える。

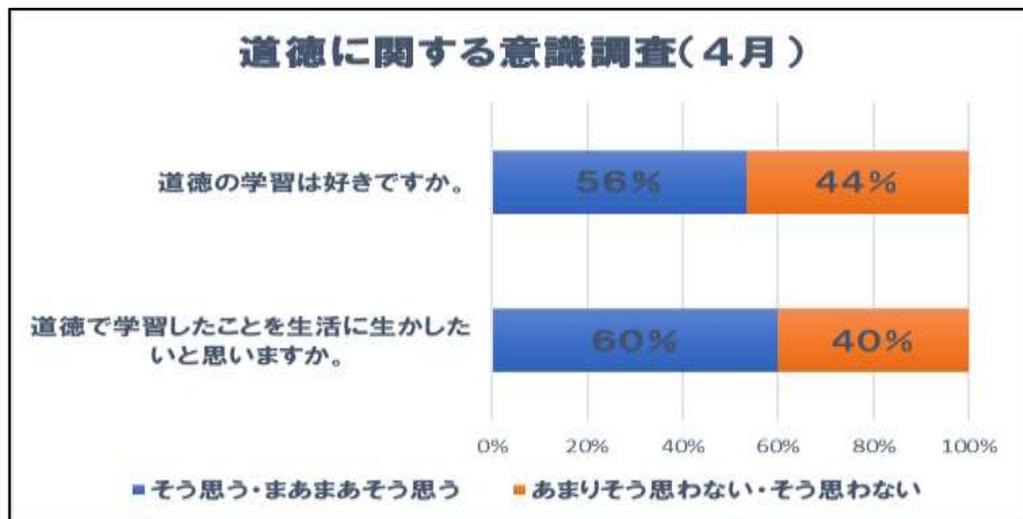
- 道徳性を育むことで、物事の善悪の判断をつけ、よりよく生活しようとする子供を育てることができ、自分自身だけでなく、人にも物にもやさしく思いやりのある子供を育てることができる。
- 「特別の教科 道徳」の授業の中で、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞き考えたりすること、さらには、それらを議論することを通して、自分の思いや考えを表現する力や自己と他者の違いに目を向け共感し分かろうとする力を伸ばすことができる。また、自分自身の普段の生活を振り返る場を設定したり工夫したりすることで、自分の良さや課題に気づくことができる。また、それを続けることで、自分に自信をもち、なりたい自分を想像し、目標に向かって努力・挑戦する子供を育てることができる。

(3) 子供の実態から

本学級は、6年生31人の学級である。

4月に6年生に進級し、クラス替えもあり、5年生とは違う新たなメンバーでのスタートとなった。ずっと同じクラスだった子供もいれば、久しぶりに同じクラスになった子供、初めて同じクラスになった子供もおり、4月当初は同じクラスだった時に仲の良かった友達とだけ遊ぶ姿や、わざわざ隣のクラスに行き、去年同じクラスであった友達と遊ぶ姿が多く見られた。また、6年生となり心も体も成長している中で、固定化した仲間集団で過ごしたり、友達に対して荒い言葉で接したり、自分の都合でものを考えて自分勝手な言動をしたりする子供の姿が多々見られた。このような姿から、道徳性は、日常生活の中でこそ試され深く関わってくるといふことを感じるとともに、目の前の子供たちの道徳性を育む必要があると感じた。

4月に道徳の時間に関する意識調査を行った。「道徳の学習が好きか」、「道徳で学習したことを生活に生かしたいと思うか」といった質問内容で行った(資料1)。



【資料1 道徳に関する意識調査】

道徳の学習を好きと答えた子供の理由は、「いろいろなことを学べるから。」「いろいろな話が聞けるから。」「意見をたくさん言えるから。」「お話を読めるから。」というもので、好きではないと答えた子供の理由は、「考えを思いつかないから。」「発表が苦手。」「難しいから。」「気持ちを考えるのが苦手だから。」というものだった。

道徳で学習したことを生活に生かしたいと思うと答えた子供の理由は、「大切なことだから。」「自分のためになるから。」「生活に役立つから。」「生活に役立ちそうだから。」というもので、生かしたいと思わないと答えた子供の理由は「よく分からないから。」「生かすににくいから。」「どう生かせばいいか分からないから。」というものだった。

意識調査の結果から、約6割の子供が道徳を好きで、学んだことを日常生活に生かそうとする気持ちをもっていることが分かった。しかし、約4割の子供は、学習したことを日常生活の中で生かそうとする気持ちが弱いことが分かった。授業の中で理解できていても、日常生活の中で生かそうとしなければ、道徳性が育まれたとは言えない。そこで、子供に授業の内容を理解させるだけでなく、普段の自分の生活を振り返り、これからの生活に生かそうとする意欲を高めるような授業を行うことが必要であり、そうすることで道徳性を育みたいと考えた。

2 研究の目的

自ら道徳性を養う「特別な教科 道徳」の指導の工夫
～道徳的な問題を自分事として、議論し探求する学習指導を通して～

「道徳性」とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性である。「道徳性」は、それぞれの場面において善悪を判断する「道徳的判断力」、善を行うことを喜び、悪を憎む感情である「道徳的心情」、これらによって価値があるとされた行動をとろうとする「道徳的実践意欲と態度」の3つから構成されている。子供に道徳性を自らの課題として捉えさせたい。そのためには、自分事として考えられる道徳的な問題を、子供自身で考え議論し合うことで探求する、主体的な態度を養いたい。そのような授業の在り方を探ることを目標とする。具体的には次の仮説及び視点に沿って研究を作っていく。

3 研究の仮説

本研究主題に迫るために、次のような仮説を設定した。

仮説：明確な指導観を基に、生活実態を生かした導入を行い、考えを焦点化するための展開の工夫をし、自らの道徳性の向上を促す振り返り活動をしていけば、主体的に道徳性を養う力を身につけることができるであろう。

4 研究の視点

(1) 導入の工夫 (視点1)

- ア 自分事として問題意識を持たせる工夫
- イ 自己を見つめさせる導入の工夫

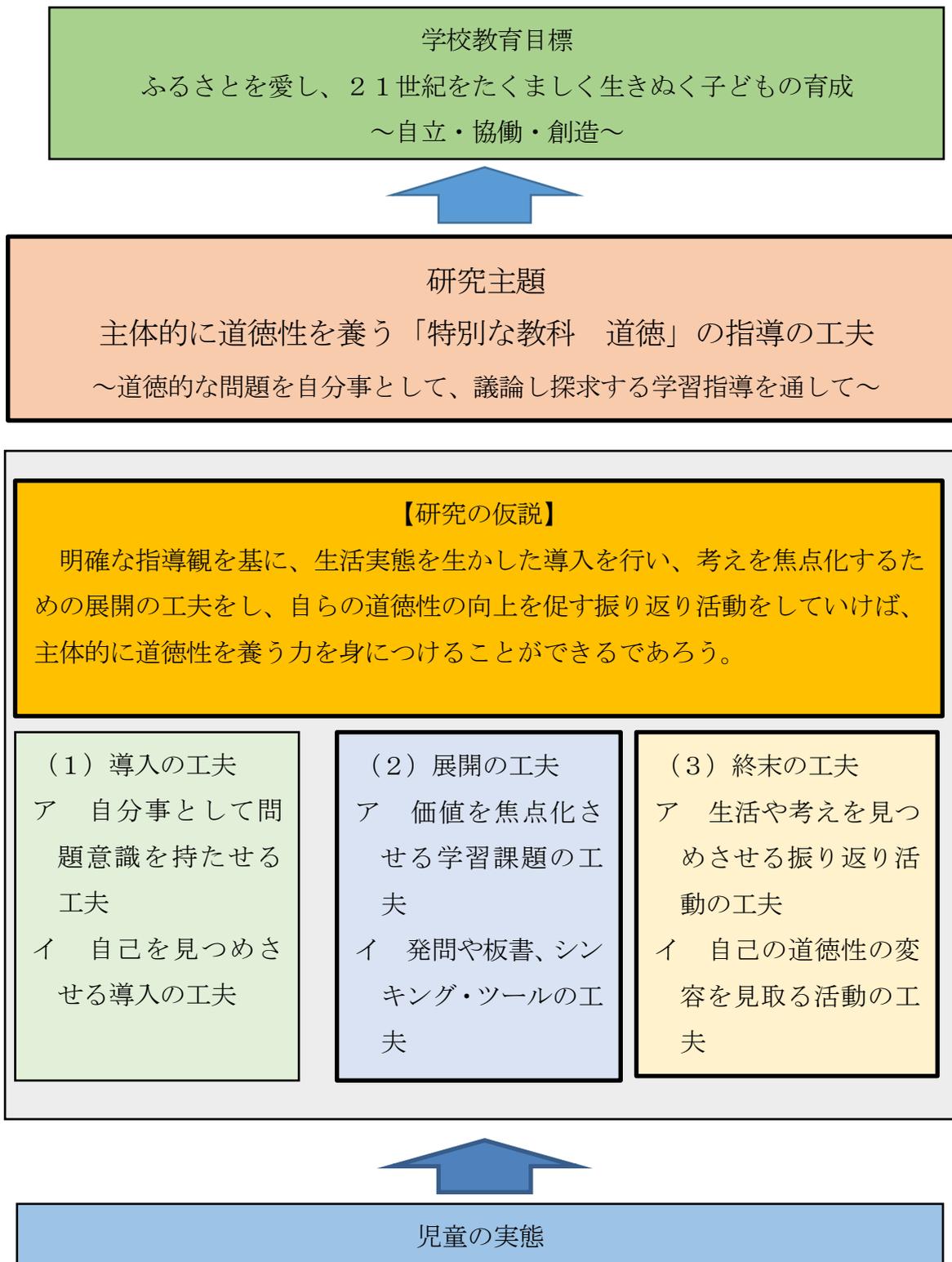
(2) 展開の工夫 (視点2)

- ア 価値を焦点化させる学習課題の工夫
- イ 発問や板書、シンキング・ツールの工夫

(3) 終末の工夫 (視点3)

- ア 生活や考えを見つめさせる振り返り活動の工夫
- イ 自己の道徳性の変容を見取る活動の工夫

5 研究の構想図



II 研究の実際

1 実践授業①

<p>主題名 誠実に生きる 内容項目 A (2) 正直、誠実 教材名 「手品師」(小学道徳 生きる力6 日本文教出版 P90～93) ねらい 大劇場のステージに立てるチャンスを断り、男の子との約束を守った手品師の誠実さに触れることで、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。</p>
--

以下は、「手品師」についての実践の流れである。

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の思考・反応 (C)
気づく	1 「誠実な人」とはどんな存在かを考える。 導入の工夫 (視点1) ア 事前のアンケートによって、本時の主題について自分ごととして考えさせた。	T 先日アンケートを取りましたね。 C 誠実な人について。 T みなさん「誠実」という言葉を知らない人が多かったですね。 T アンケート結果を見てみましょう。 導入の工夫 (視点1) イ アンケート結果を提示することで、友達についての自分の考えや他者の考えを知った状態で学習に入ることができた。
	2 本時のテーマを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(テーマ) 誠実な人ってどんな人？</div>	T 今日、「誠実な人とはどんな人？」をテーマに考えましょう。
展開の工夫 (視点2) ア 本時で何について学ぶのかを子供が分かるように、学ぶ内容を板書した。導入の際に板書することで、全員が学ぶ内容の方向をそろえることができた。		
とらえる	3 教材「手品師」を読んで話し合う。 (1) 手品師は「誠実」なのかを考える。	T 手品師は誠実だと思いますか。そう思うか、違うか。自分の考える方にネームプレートを貼りましょう。 T 理由を教えてください。 C 男の子のところに行ったから。 C 自分のことよりも男の子を優先して考えていたから。
	展開の工夫 (視点2) イ 登場人物について、テーマに沿った発問で捉えさせることで、学びの方向を焦点化した。また、ネームプレートで自分の考えを明らかにすることで全員の考えを、全員が知ることができた。	
とらえる	(2) 手品師の本当の願いは何だったのかについて考える。 展開の工夫 (視点2) イ 手品師の本当の願いについて考えることで、「男の子を優先したから誠実」より、「誠実」についての理解を深めた。	T 男の子を優先していたとありますが、手品師の本当の願いは何でしたか？ C 大劇場で大勢の人の前で手品をすること。 C 大勢の人を笑顔にすること。 T だとするならば、大劇場に行くことが正直で誠実なのではないですか。 C いや、それだと男の子を悲しませることになる。 C 男の子との約束を破ることになる。 T 男の子との約束を破るとありますが、みなさんはこの意見についてどう思いますか。 C 約束を破ったら誠実ではない。 T 約束を守ることが誠実に繋がるのですね。では、手品師は、なぜ迷ったのですか。迷わずにパッと男の子のところへ行った方が誠実なのではないですか。 C 夢は夢で大事だったから迷った
	展開の工夫 (視点2) イ 手品師の迷いに焦点を当てるための切り返しの発問をすることで、子供たちの考えを揺さぶることが出来た。	

	(3) 男の子のもとへ行くことを決めた手品師の心情を考える。	Tでは、手品師はどんな思いから男の子との約束を選んだのかみんなで考えてみましょう。 C男の子は自分を待っていてくれるから。 Cそんな男の子を悲しませたくないし、笑顔にしたいから。 C大劇場に行けば願いが叶うけど、でも先に約束したのは男の子だから。 T男の子は待っていてくれるんですね。大劇場の観客とは違う？ C大劇場はただの観客で男の子は手品師のことを待っている。 Cそんな男の子を悲しませたくないし、笑顔にしたいから。 C大劇場に行けば願いが叶うけど、でも先に約束したのは男の子だから。
	(4) 再度、手品師は誠実かを考える。	T手品師は迷いに迷った末に男の子のところに行くことを決めましたですね。迷いに迷った手品師は誠実だと思いますか。 C迷った上で決めているから誠実だと思う。
みつめる	3 自分の生活を振り返り考える	Tみなさん、最初は「誠実」について分からないことが多かったですが、手品師の生き方から少しずつ「誠実」について分かってきましたね。みなさんにとって「誠実な人」とはどんな人ですか。テーマに対する自分の考えも含めて、今日の学習を通して考えたことを振り返りましょう。 T書き終えたら、フリートークの時間です。自分の書いたことを友達に紹介しましょう。

展開の工夫 (視点2)

イ 最後にテーマに沿った発問をし、その変化を捉えさせることで、価値理解の深まりに気づかせ、ねらいにせまることができた。

終末の工夫 (視点3)

ア 振り返り際には、これまでの自分だけでなく、自分がどうしていきたいのかについて書かせることで、これからの自分の行動を考えることができた。

終末の工夫 (視点3)

イ 書いた振り返りを、席を立てて自由に話させることで、様々な友達の考えを得られるとともに、自分の考えたことを何回も話す機会を設定した。

(1) 導入の工夫 (視点1)

ア 自分事として問題意識を持たせる工夫

主題である「誠実な人」に関して、子供一人ひとりが自分事として捉えられるようにするために、事前にアンケート(資料2)を取った。

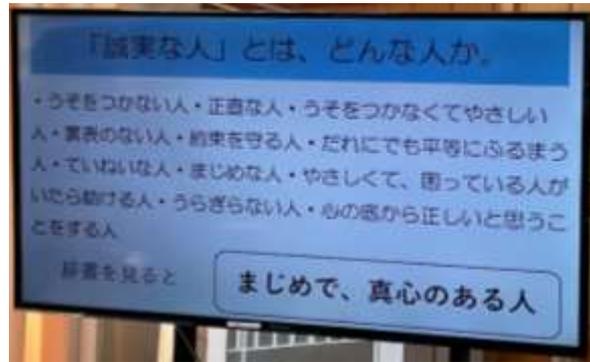
主題に関して、自分事として捉えさせるためには、普段の自分の生活との関わりを振り返ることが大切である。今回のねらいは、大劇場のステ

【資料2 道徳に関するアンケート】

ージに立てるチャンスを断り、男の子との約束を守った手品師の誠実さに触れることで、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てることである。そこで、「誠実な人」についてどのような考えをもっているかアンケートを通して事前に振り返らせることで、主題と子供の生活を結びつけることにした。

イ 自己を見つめさせる導入の工夫

導入の場面で、事前のアンケートの結果を用いて、学級のみんが、「誠実な人」についてどのように考えているかを簡単にまとめて、提示した（資料3）。事前のアンケートの結果を導入場面で提示することで、子供は、自分の回答を想起したり、クラス



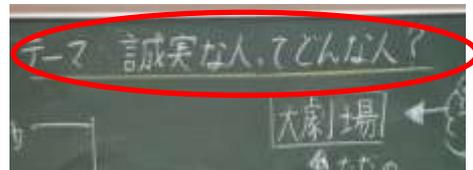
【資料3 アンケート結果の提示】

の友達がどのような回答をしたのかを知ることができたりする。その結果、自分とクラスの友達の考えを比べたりして、今の自分を知った状態で学習に入ることができた。

(2) 展開の工夫（視点2）

ア 価値を焦点化させる学習課題の工夫

本教材では、登場人物である手品師の、自分の夢と男の子との約束のどちらを選択するかを迷いながらも決める姿を通して、「誠実な生き方」への理解を図っ



【資料4 課題の明確化】

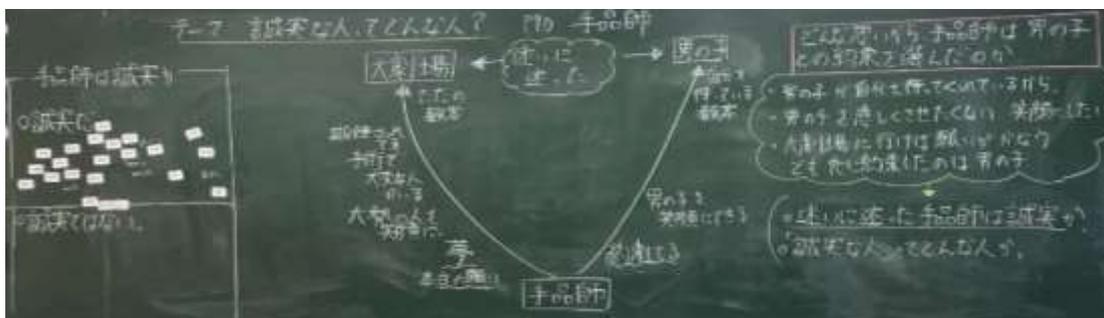
ている。そのため、子供が考える内容がぶれないように、導入の場面で「誠実な人とはどんな人か」について考えていくことをテーマとし、板書した（資料4）。そうすることで、全員が学ぶ主題の方向性を揃えることができた。

イ 発問や板書、シンキング・ツールの工夫

子供が道徳的価値についての考えを深めるためには、登場人物の気持ちになって自分事として考えられるようにすることが大切であると考え。そのために、本教材では場面ごとの手品師への自我関与を通して考えを深めていった。特に、最初と最後に「手品師は誠実か」という発問を行うことで、子供は手品師を通して「誠実な人とはどんな人か」というテーマについての考えの深まりに気付き価値への理解を深めることができた。

また、「誠実」に対する理解をより深いものにするために随所で子供の思考の流れを揺さぶるための切り返しの発問を行った。さらに、思考の揺さぶ

りが視覚化されるように板書を構造的にした(資料5)。そうすることで、テーマに対する考えの深まりに視覚的にも気づくことができたと思う。



【資料5 板書】

(3) 終末の工夫(視点3)

ア 生活や考えを見つめさせる振り返り活動の工夫

学習の後半には自分を見つめる時間を設定した。なぜなら、道徳性を育てるためには、教材を通して道徳的価値の理解を深めた後に、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面や状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践しようとする意思を持つようにすることが大切であるからである。その際には、普段の生活を振り返りながら、今回の学習を通して考えたこと、これから自分がどうしていくかを書かせるようにした。そうすることで、過去の反省だけにとどまることなく、これからの自分の行動を考えることにつながった。

イ 自己の道徳性の変容を見取る活動の工夫

振り返りの場面で、自分の書いたことを、席を立って自由に伝えに行く「フリートーク」の場を設定した(資料6)。書き終わったもの同士で、自分の振り返りを伝え合うことで、自分の考えを他者に伝える機会を多く



【資料6 フリートークの様子】

得ることや、クラスの友達がどんな振り返りをしたかを知ることができ、多様な考えに触れることにつながった。こうすることで、子供は友達の振り返りを積極的に聞く様子や、自分の振り返りに自信をもっている様子が見られた。フリートークの後で、全体に紹介する時間を設定したり、その時間で書ききれなかった子供に関しては、次の日の朝の時間などで紹介する時間を取ったりした。

II 研究の実際

1 実践授業②

主題名	引き継ぎたい大切な町	内容項目C (17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
教材名	「こわれたおじいちゃんの家」(つなぐ～熊本の明日へ～)	
ねらい	熊本地震で家を失った祖父母が、生まれ育った町に住み続ける理由について考えることを通して、人や物、自然等とのつながりを感じ、郷土を愛し、大切に思う気持ちに気づき、自分自身の町を大切にしていこうとする心情を育てる。	

以下は、「こわれたおじいちゃんの家」についての実践の流れである。

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の思考・反応 (C)
気づく	1 それぞれの「ふるさと」について考える。	<p>Tみなさんのふるさとといえばどこですか。 C御船町 C実家 Tそうですね。みなさんにとってふるさとといえば、この御船町ですね。 Tふるさとだから〇〇〇。みなさんだったらここにどんな言葉を入れますか。 Cほこりを持つ。 C懐かしい。 C心地よい。 C知り合いがたくさんいる。 C思い出がある。 Tたくさんポジティブな「ふるさとだから」が出ましたね。みなさんにとってふるさとにはたくさんよさがありそうですね。</p>
	2 本時のテーマを確認する。	<p>T今日は、「ふるさとのよさ」をテーマに考えましょう。</p> <p style="text-align: center;">(テーマ) ふるさとのよさ</p>
	3 教材「こわれたおじいちゃんの家」に関わる出来事に、自分だったらどうするか考える。	<p>T教材に入る前に、一つ質問をします。 Tもし、大きな災害があって、みなさんの住んでいる家が壊れてしまったとしたら、みなさんは修理を待ってそこに住み続けますか。それとも、他の場所へ引っ越しますか。</p>

導入の工夫 (視点1)

イ 考えた〇〇〇に入る言葉を全体で共有することで、自分と他者との共通点・相違点に気づかせた。

導入の工夫 (視点1)

ア 〇〇〇に入る言葉を一人一人に考えさせることで、本時の主題について自分ごととして考えさせた。

展開の工夫 (視点2)

ア 本時で何について学ぶのかを子どもが分かるように、学ぶ内容を板書した。導入の際に板書することで、全員が学ぶ内容の方向をそろえることができた。

<p>とらえる</p>	<p>(1) タブレットで自分の考えを表す。</p> <p>展開の工夫 (視点2) イ 子供が一人一台持っているタブレットPCの中にあるシンキング・ツール「ポジショニング」を使い、その結果を電子黒板に映すことで、クラス全体の傾向と一人一人の考えを全体で共有することができた。</p> <p>(2) それぞれの考えの理由を伝え合う。</p> <p>展開の工夫 (視点2) イ 電子黒板に映した「ポジショニング」と板書に対応させ、理由を板書することで、それぞれの位置にポジショニングした人がどんな考えを持っているのかを全体で共有することができた。</p> <p>3 教材「こわれたおじいちゃんの家」を読んで話し合う。</p> <p>(1) おじいちゃんの状態について整理する。</p> <p>(2) おじいちゃんの決断について考える。</p> <p>展開の工夫 (視点2) イ 授業冒頭に考えた主題についての考えと繋げることで、教材で考えたことと主題が繋がっていることを意識させることができた。</p>	<p>T タブレットを開いて発表ノートのポジショニングに自分の考えを表しましょう。</p> <p>T そのまま住むという人、ほかのところに住むという人、迷っている人と分かれましたね。 T では、それぞれ理由を聞いてみたいと思います。 C 自分の家を早く見つけたいから。 C 離れたくない気持ちもあるけど、安全そうな方がいい。 C 危険かもしれないけど、今まで住んでいたところから急に離れたくない。 C 今まで住んでいた安心できる場所に住んでいたいから。 T 安全を取りたい気持ちもあるし、これまでの思い出もあって、安心を取りたい気持ちもあるんですね。 T 今日の教材では、登場人物がみなさんと同じように悩み考え決断します。登場人物がどう考えて決断したのかをみんなで考え、テーマに迫っていきましょう。</p> <p>T おじいちゃんはどうな状況ですか。 C 地震によって今まで住んでいた家が壊れてしまった。 C 孫たちから危険だと声を掛けられている。 C どうしたらよいか迷っている。 T そうですね。今まで住んでいた家が被災してしまって、住めなくなりました。みなさんと同じように、どうしたらよいか悩んでいますね。 T おじいちゃんはどうな決断をしましたか。 C そこに住み続けようと思った。</p> <p>T おじいちゃんは引っ越すこともできました。けど、生まれた町に住み続けようと思ったんですね。なぜなのでしょう。 C やっぱり思い出があるからだと思う。 T それだけ大切な思い出があるんですね。 C 家族との思い出が詰まっている。 T 思い出が詰まっているかいないかで何か変わるのですか。 C 思い出が詰まっていることで安心できる場所になる。 C 温かい気持ちにさせてくれる場所になっている。 T 思い出がある場所だから、安心出来て、温かく落ち着ける場所になっているんですね。みなさんが最初に考えたふるさとに対する思いと重なっていますね。</p>
-------------	--	---

	<p>4 テーマについて考える。</p> <p>展開の工夫（視点2） ア 最後にテーマに沿った発問をすることで、価値理解の深まりに気づかせ、ねらいにせまることができた。</p>	<p>T最後に、今日のテーマについて自分が考えた答えを出しましょう。</p> <p>Cふるさとのよさは、ずっと居ることによってこの色々なことを知ることが出来ているので、安心する場所になっている。</p> <p>C思い出がたくさん詰まっているので、落ち着く場所でもあるし、温かい気持ちになる場所でもある。</p> <p>C泣いたり笑ったりした場所だからたくさんの思い出がある。</p> <p>Cたくさんの友達も住んでいるので、自分の知らないたくさんの思い出も詰まっている。</p>
<p>みつめる</p>	<p>5 自分の生活を振り返り考える</p> <p>終末の工夫（視点3） ア 振り返り際には、これまでの自分だけでなく、自分がどうしていきたいのかについて書かせることで、これからの自分の行動を考えることができた。</p>	<p>T自分の思い出、友達の思い出など、たくさんの人達の思い出が詰まっているところが「ふるさとのよさ」なのですね。素敵ですね。</p> <p>Tさて、今日は「ふるさとのよさ」をテーマに考えました。登場人物の生き方も含めて、今日の学習を通して考えたことやこれまでとこれからの自分について感想を書きましょう。</p> <p>T書き終えたら、フリートークの時間です。自分の書いたことを友達に紹介しましょう。</p> <p>終末の工夫（視点3） イ 書いた振り返りを、席を立って自由に話させることで、様々な友達の考えを得られるとともに、自分の考えたことを何回も話す機会を設定した。</p>

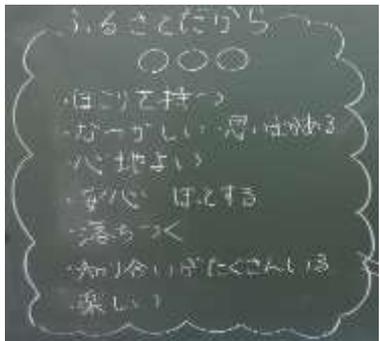
(1) 導入の工夫（視点1）

ア 自分事として問題意識を持たせる工夫

主題である「引き継ぎたい大切な町」に関して、自分事として捉えさせるためには、普段の自分の生活との関わりを振り返ることが大切である。普段、自分のふるさとのことを意識しながら生活している子供は多くないと考えられる。そのため、ふるさとに対する考えを一人ひとりが持つことで、主題と子供の生活を結びつけることができると考えた。そのために、「ふるさとだから〇〇〇」に当てはまる言葉を考えさせた。

イ 自己を見つめさせる導入の工夫

導入の場面で、「ふるさとだから〇〇〇」に当てはまる言葉を、学級のみんながどのように考えているかを簡単に板書した（資料7）。そうすることで、自分の考えを明らかにするとともに、クラスの考えを知ることにつなげた。



【資料7 質問結果の提示】

(2) 展開の工夫 (視点2)

イ 発問や板書、シンキング・ツールの工夫

本教材は、「おじいちゃん」のふるさとへの考え方が、震災後、今まで暮らしていた場所に住み続けるかどうかの悩みを通して描かれている。そのため、子供一人ひとりが自分が「おじいちゃん」の立場に立ったときどう考えるのかを意識させることで、「おじいちゃん」との考えの共通点や相



【資料8 シンキング・ツール
=ポジショニング】

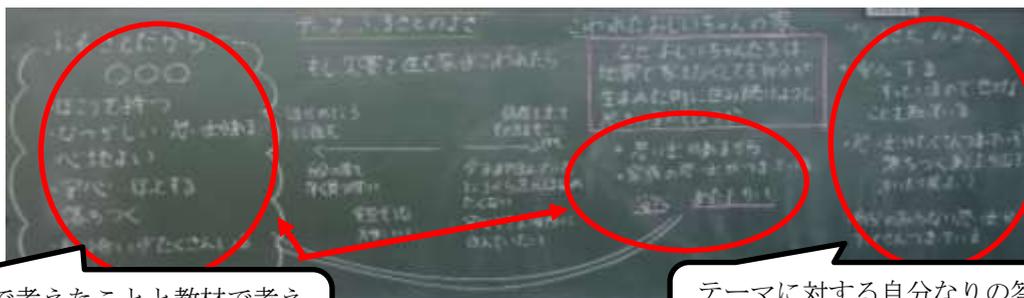
違点をより深く意識できると考えた。子供は、「おじいちゃん」と同じように、どうするか悩み決断をすると考えられた。そのため、「ポジショニング」を使い、自分がどこに位置するかをポイントすることで、子供それぞれの考えを可視化することができた(資料8)。このポジショニングは途中でポイントを移動できるようになっており、友達の発言を聞いて移動させた場合には「どこで」考えが変わったのかが全員に分かる手助けとなった。

また、電子黒板に提示したポジショニングと板書に対応させ、なぜそこにポイントしたのか理由を板書した(資料9)。そうすることで、それぞれの位置にポイントした人が、どんな考えを持っているのかを全体に共有することができた。



【資料9 電子黒板と板書の対応】

さらに、「おじいちゃん」を通して考えたふるさとへの思いを、授業冒頭に行った「ふるさとだから〇〇〇」の結果と比べることで、教材とテーマの繋がりを意識させることができ、最後にテーマに対する自分なりの考えを出すことで、ねらいとする価値への理解を深めることができた(資料10)。



冒頭で考えたことと教材で考えたことを比べることで、教材とテーマの繋がりを意識できた。

【資料10 板書】

テーマに対する自分なりの考えを出すことで、ねらいとする価値への理解を深めた。

II 研究の実際

1 実践授業③

主題名 国際理解の心 内容項目C(18) 国際理解、国際親善 教材名 「エンブリさん」(道徳教育用郷土資料 熊本の心P) ねらい 外国の文化や人々を大切に作る心をもって、世界の人々との親善に努めようとする態度を育てる。

以下は、「エンブリさん」についての実践の流れである。

過程	学習活動	教師の発問 (T) 児童の思考・反応 (C)
気づく	1 外国の人と関わった経験について考える。 2 教材「エンブリさん」に関わる出来事に、自分だったらどうするか考える。 (1) タブレットで自分の考えを表す。	T みなさん外国の人と出会ったり、話をしたりした経験はありますか。 C ALTの先生。 C 他には関わったことがない。 T 一番身近な外国の人はALTの先生の方ですね。他に関わったことがないという人も多いですね。 T もし、クラスに外国から転校生が来たら、みなさんどうしますか。 C 話しかける。 C 他の人に合わせるかも。 T なるほど、意見が分かれそうですね。 T では、クラスに外国から転校生が来たら、積極的に関わることか、それとも関わらないのかをポジショニングで自分の考えを表してみましよう。 T みなさんの傾向としては、積極的に関わりたいですね。ただ、真ん中で迷っている人や関わらないとする人もいますね。
	(2) それぞれの考えの理由を伝え合う。	T それぞれの理由を聞いてみましょう。 T 「関わらない」とした人の理由は何ですか。 C 外国の人なので、言葉が分からないので、関わらないかなと思いました。 C 言葉が分からないと関わりづらい。 T なるほど、言葉が分からないとどうしたらいいか困りますよね。では、真ん中の迷っている人の理由は何ですか。 C 話しかけて仲良くなりたいけど、言葉が分からないので、多分いくとは思いますが、やっぱり引いちゃう。 T 話しかけたいんだけど、ですね。では多かった積極的に関わる人の理由は何ですか。 C 相手も言葉が分からなくて困っているはずだから、助けたい。 C いっしょに遊んでみたいから。 T 仲良くなりたいんですね。
	3 本時のテーマを確認する。	T 迷っている人や関わらないとした人は、仲良くなりたいということにはどうですか。 C 仲良くなりたい。

導入の工夫 (視点1)

ア ポジショニングを使い一人一人に考えさせることで、本時の主題について自分ごととして考えさせた。

導入の工夫 (視点1)

イ ポジショニングの結果を全体で共有することで、自分と他者との共通点・相違点に気づかせた。

展開の工夫 (視点2)

イ ポジショニングの結果を電子黒板に映すことで、クラス全体の傾向と一人一人の考えを全体で共有することができた。

展開の工夫 (視点2)

イ 電子黒板に映した「ポジショニング」と板書を対応させ、理由を板書することで、それぞれの位置にポジショニングした人がどんな考えを持っているのかを全体で共有することができた。

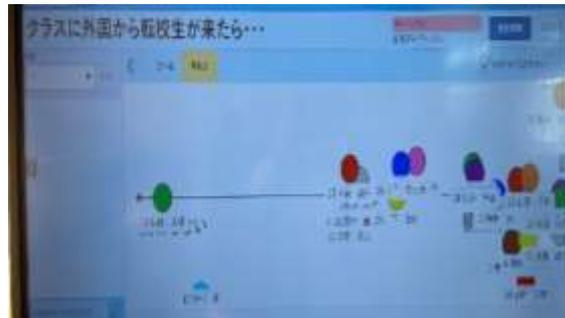
		<p>Tけど、言葉が・・・ですね。今日は、外国の人、つまり、国が違って仲良くなるにはどうしたらいいかについて考えていきましょう。</p> <p>(テーマ) 国が違って仲良くなるにはどうしたらよいだらう</p>
とらえる	<p>4 教材「エンブリさん」を読んで話し合う。 (1) エンブリ夫妻に対する須恵村の人々の気持ちを考える。</p>	<p>Tエンブリさんが須恵村に来た最初の頃は、エンブリさんのことを須恵村の人々はどう思っていましたか。ハートのバロメーターで表してください。 C全部青。 Cちょっとはピンクがある。 Tどうしてそのように思いましたか。 C冷たい視線をたくさん送っていたからそうかなと思った。 C外国の人がめずらしくてこわいっていうのもあったと思う。 T普段外国の人と会う機会が無かったんですね。 Tですがエンブリ夫妻が村にいる間にどうなっていましたか。 Cどんどん打ち解けていった。 Tそうですね。最後村を出るときにはハートのバロメーターで表すとしたらどうですか。 C全部ピンク。 C見送りまでであった。 C50年経っても仲良しだった。 Tそうですね。50年経っても歓迎されるほどに打ち解けたのですよね。 T村の人々の心がこれだけ変化したのはきっと理由がありますよね。須恵村の人々が次第にエンブリ夫妻に打ち解けていったのはどうしてなのでしょう。 C快く寄付してくれたから。 T寄付したことで村はとて助かりましたね。村の人々はとも感謝したでしょうね。 Tしかし、全然打ち解けてない人にお金をくださいってみなさん頼めますか。 C無理。頼めないと思う。 Tということは、お金の寄付を頼む前から打ち解けてきていたってことですね。エンブリ夫妻は何をしたのでしょうか。 C日本の着物を着たり、球磨の言葉を使ったり球磨の踊りを踊ったりしたから打ち解けてきた。 Tその土地の文化を取り入れたんですね。 Tエンブリさんはどうしてこのようなことをしたのですか。 C村の人たちに受け入れてもらいたいから。 C村になじめるようになりたい思いがあったから。 Tエンブリ夫妻のこのような思いと行動があったからこそ、打ち解けることができたんですね。</p>
	<p>展開の工夫 (視点2) イ シンキング・ツール「ハートのバロメーター」を使うことで、人物の心の様子を可視化した。また、複数回使うことで、人物の心の様子の変容を可視化した。</p> <p>(2) 村の人々が心を開いた理由を考える。</p>	
	<p>展開の工夫 (視点2) イ 切り返しの発問や深める発問をすることで、エンブリ夫妻の思いを深く理解することができた。</p>	
	<p>展開の工夫 (視点2) イ 板書を構造的にすることで、エンブリ夫妻と須恵村の人々が打ち解けた理由の視覚的な理解を促した。</p>	
	<p>4 テーマについて考える。</p>	<p>T最後に、今日のテーマについて自分が考えた答えを出しましょう。 C国が違って積極的に話すことが大切。 C自分から行動する。 C他の国のことを尊重する。 C相手の文化を取り入れる。自分の文化も知ってもらおう。</p>
	<p>展開の工夫 (視点2) ア 最後にテーマに沿った発問をすることで、価値理解の深まりに気づかせ、ねらいにせまることができた。</p>	

み つ め る	5 自分の生活を振り返り考える	Tみなさんが言うように、自分から積極的に相手のことを、相手の文化を知ろうとすることが仲良くなる秘訣かもしれませんね。 Tさて、今日は「国が違っても仲良くなるにはどうしたらよいだろう」をテーマに考えました。では、あなた自身はどうでしょうか。普段の自分を振り返りながら、これからどうしていきたいのかも感想に書きましょう。書き終えたら、交流し感想を言い合しましょう。
<p>終末の工夫（視点3） ア 振り返り際には、これまでの自分だけでなく、自分がどうしていきたいのかについて書かせることで、これからの自分の行動を考えることができた。</p>		<p>終末の工夫（視点3） イ 振り返りを焦点化することで、ねらいとする価値に対する自身の考えを深めることを促した。また、他者との交流を通して考えの多様性に触れる機会を作ることができた。</p>

(1) 導入の工夫（視点1）

ア 自分事として問題意識を持たせる工夫

主題である「国際理解の心」に関して、自分事として捉えさせるためには、普段の自分の生活との関わりを振り返ることが大切である。導入の質問により、外国の人と関わった経験が少ないことが分かった。そのため、外国の人との関わり方に対する考えを一人ひとりが持つことで、主題と子供の生活を結びつけることができると考えた。そのため、ポジショニングを用いて自分の考えを明らかにさせた（資料11）。



【資料11 導入部分でのポジショニングの活用】

イ 自己を見つめさせる導入の工夫

ポジショニングの結果を全体に共有することで、他者の考えを知ることができるようにし、自分とクラスの考えを比較できるようにした（資料11）。

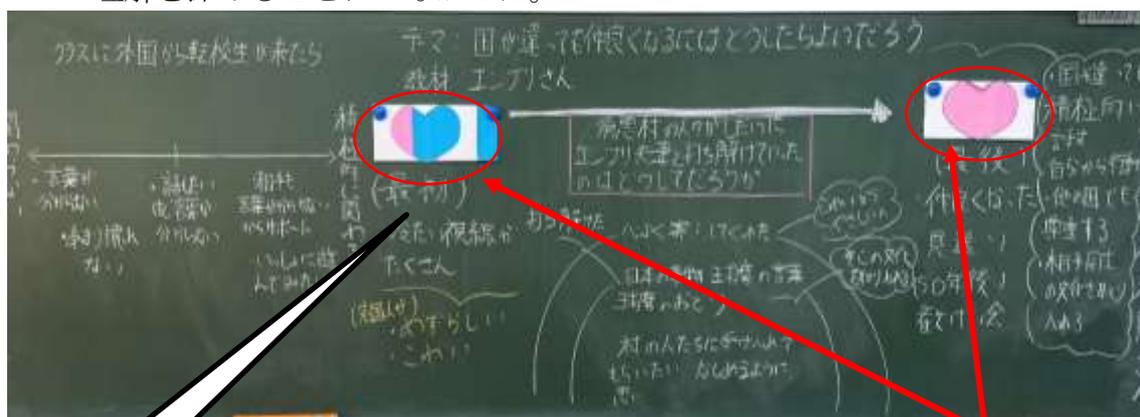
(2) 展開の工夫（視点2）

イ 発問や板書、シンキング・ツールの工夫

心の様子を考えさせる際に、子供一人ひとりがどのように感じているかを明らかにするために、ポジティブな意味を表す赤色と、ネガティブな意味を表す青色で構成されたシンキング・ツール「ハートのバロメーター」を用い

た(資料12)。同じ場面でも、子供それぞれに赤色と青色の割合が異なる回答をするため、その理由を尋ねることで、他者が自分とは異なる考えを持っていたり、異なる感じ方をしていたりすることに触れる機会となった。

また、複数回提示することで、登場人物の心の変容を可視化でき、子供の理解を深めることにつながった。



ハートの色の割合で心の様子を表した。

【資料12 シンキング・ツール=ハートのバロメーター】

登場人物の心の変容を可視化した。

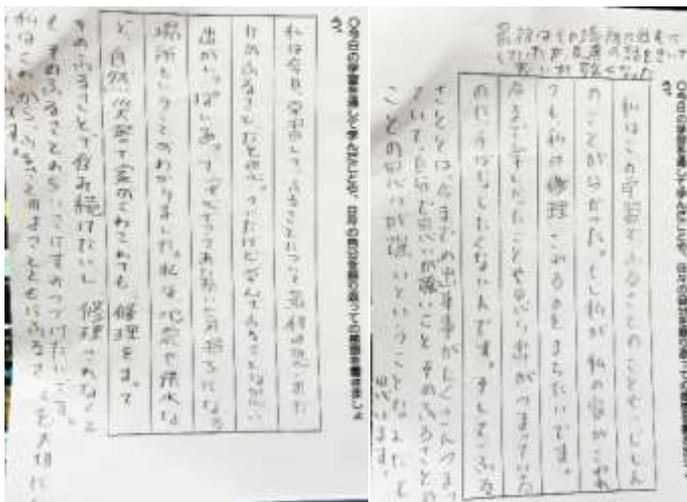
(3) 終末の工夫 (視点3)

イ 自己の道徳性の変容を見取る活動の工夫

振り返りの場面で、テーマに焦点を当てることで、子供の書く内容が焦点化され、ねらいとする価値に対する考えを、より深めることができた。(資料13)

また、書いた内容を他者と交流することで、自分の考えを再認識する

とともに、クラスの友達の振り返りを知ることができ、多様な考え方や感じ方に触れる機会となった。



【資料13 子供の振り返り】

Ⅲ 研究の成果と課題

1 研究の視点より

(1) 導入の工夫（視点1）

- 事前にアンケートを取ったり、授業の最初に「～だから〇〇〇」の形で発問したり、ポジショニングを用いたりすることで、子供は、主題に対する今の自分の考えを明らかにすることができた。そのため、子供は、自分事として授業に参加することができるようになった。
- アンケートや「～だから〇〇〇」、ポジショニングの結果を、ICTを活用して全体に共有することで、主題に対する自分の考えを明らかにするだけでなく、クラスの友達がどう考えているかを知ることができ、多様な考えに触れた状態で授業に参加することができた。
- 導入の時点で今の子供の中での価値の類型化を図るなど、アンケートや「～だから〇〇〇」、ポジショニングの結果を工夫して提示することで、より価値への焦点化がなされるだろう。

(2) 展開の工夫（視点2）

- 子供に考えさせたい内容を、あえて最初の段階で伝え、テーマとして板書することで、子供は、この時間に何を考えるのかの視点が明確化されて、思考の方向を定めることができた。
- 自我関与型の発問や問題解決型の発問、切り返しの発問をすることで、思考が活性化され、議論が深まり、主題に対しての考えを深めることができた。
- 教材の内容によって、板書の形態を工夫することで、中心人物の心の様子が可視化され、内容理解を進めることができた。その結果、子供の思考を深めることができた。
- シンキング・ツール「ポジショニング」や「ハートのバロメーター」を使うことで、自分や他者の考えを可視化したり、多様な考えの議論につなげたりすることができた。また、全員参加につなげることができた。
- 発問に関しては、全員が考えやすいようなものにしなければならない。そのためには、教材研究を深め、子供がねらいとする価値に近づけるようなものとする必要がある。

(3) 終末の工夫（視点3）

- 振り返りの際に、毎回の学習で学んだことを焦点化し、これからのことを書か

せたことで、学習した内容と自分の生活を結び付けようとする意欲や態度につながった。

○フリートークや友達の振り返りにコメントを言うなど、振り返りを交流するための工夫を行ったことで、自分の考えを友達に伝えようとする意欲や態度につながった。

●友達へのコメントの内容をもっと発展させていく必要がある。まだ「良いと思いました。」など、内容が薄いものが多い。もっと具体的な内容を言えるようになると、振り返りが今以上に日常生活とつながってくるだろう。

2 アンケート結果と考察

本研究の実施途中の9月と実施後の12月に、本年度の4月に行ったものと同様のアンケートを実施した。それぞれの結果を比較してみると、「道徳の学習は好きですか」との問いに「そう思う・まあまあそう思う」と答える子どもが増えたことが分かる（資料14）。「そう思う・まあまあそう思う」と答えた子供の理由は以下のとおりである。



【資料14 道徳に関する意識調査】

【4月】

- ・物語を知ることができるから。
- ・たくさん発表できるから。
- ・答えがないから楽に書ける。
- ・いろいろなことを学べるから。

【12月】

- ・自分の良いところなど色々なところに気づけるから。
- ・人の気持ちになって考えることが、自分のためになる。
- ・自分の日常を振り返り見直すことができるから。
- ・自分の思いを友達に伝えることができるから。
- ・色々な人の考えを知り、自分の考えを深めることができるから。
- ・色々なことが分かり、生活に生かせるから。

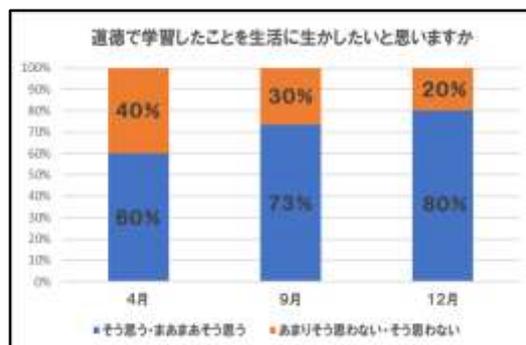
4月よりも、より自分事として道徳の授業を捉え、「道徳性」に関わる理由が増えた。また、「道徳は、どんな学習だと思いますか。」という問いに対しては、

- ・命の大切さなど、人と人や人と物などの関係を考える学習。
- ・相手の気持ちになって、どんなことを考えているかを考えるもの。
- ・相手の立場になって、どんなことをどうすればよいのか考える学習。
- ・他の人の自分とは違う考えを学べる学習。
- ・自分の心と向き合う学習。

と回答しており、子供が道德の学習を自分に関わる学習と捉え主体的に関わろうとする姿勢が見られた。

子供の実態を基に授業を組み立て、価値の押し付けではなく、全員で考え・議論してきたからこそ、子供一人ひとりが道德の学習を自分事として考えながら学習に臨むようになってきたと考える。

また、「これまで道德で学習したことを、生活の中で生かしたいと思えますか。」という問いに関しても、4月と9月、12月の結果を比較してみると、「そう思う・まあまあそう思う」と答えた子供の割合が増えた（資料15）。



【資料15 道德に関する意識調査】

また、「道德で学習したことを生活の中で生かしたことはありますか」の質問に関する記述内容は以下のとおりである。

- ・周りの人の気持ちを考えて行動した。
- ・友達とけんかしてしまったときに、その人の立場になってよく考えた。
- ・「もったいない」という気持ちを持って、自分なりに物を直して使うようにした。
- ・自分勝手な行動をしている人に、『だめだよ』と注意できた。
- ・この行動は良いか悪いか考えるようになった。
- ・全部人のせいにせず自分はどうだったかを考えるようになった。
- ・友だちが困っていたときに、見て見ぬふりをせずちゃんと話を聞くことができた。

これらの結果から、道德の授業で学んだことを日常の生活に生かそうと思う「道徳的実践と態度」が高まったことが分かった。そして、実際に生活に生かしている子供が多くいる。生活に生かせていない子供でも、「周りの人に親切にしたいが、恥ずかしくてできない。」「自分勝手な行動をして反省することがあるから。」など、まだ行動するまでには至っていないが、生かそうとする気持ちが現れていた。

毎回の最後の振り返りの時間に、これからどうしていきたいかを常に考えながら振り返り、自分の考えを友達に伝え続けてきたからこそ、自分の振り返りを生活の中に生かそうとする気持ちが育まれたのだと考える。

授業の「導入→展開→終末」の流れの中で、視点1～3に基づき工夫をすることは、「主体的に道德性を養う」ことに資することが分かった。学習指導要領の「内容項目の指導の観点」に則り、児童の実態に即した中心発問の工夫等、課題を今後も研究していきたい。

おわりに

一年を通して、毎回の教材研究や子供の実態の把握を通しての授業計画作成など、大変だと感じることも多い。しかし、授業中の子供の一生懸命考える姿や学んだことを生かそうとする姿勢を見ると、やってよかったと心から思えた。今回本研究を通して、「特別の教科『道徳』」の実践をまとめることができたのは、私自身の授業に対する姿勢や取組を振り返ることができ、私自身にとっても良い機会となった。

本研究では、「特別の教科『道徳』」の授業実践を通して、子供の「道徳性」を育んできた。しかし、「道徳性」は、授業だけで育まれるものではない。日々の特別活動、家庭との連携など、子供を取り巻く環境全てに関わって育まれるものである。今後は、授業実践と同時に、授業以外の学校生活や家庭との連携も視野に入れた取り組みを行いたい。

本研究は、私一人の力では成しえなかった。授業を実践するに当たって、様々な先生方からご指導や助言をいただくことができた。今後も、謙虚な気持ちを持ち、諸先生方や子供の姿からしっかりと学び、実践を続けたい。

◇参考文献◇

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示） 文部科学省
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 道徳編 文部科学省
- ・道徳教育の理論と実践 石丸秀登・末次弘幸 大学教育出版
- ・「一期一会の道徳授業」 加藤宣行・岡田千穂 東洋館出版社
- ・考え、議論する道徳授業のつくり方・評価 丸岡慎弥 学陽書房
- ・考え・議論する道徳に変える発問&板書の鉄則45
加藤宣行 明治図書